

県東総局
春日部市粕壁2-8-12
シカマビル307
TEL 048-761-8111
FAX 048-754-3371

県東



95-9932

声上げてても生の音楽を

演奏中に客席の子どもたちが声を出したり、トイレへ行ってもOK。家族みんなで自由に音楽を楽しめる入場無料のコンサート「シャイニング・ハーツ・パーティ」が十四日午後一時半から、さいたま市南区の市文化センター大ホールで開かれる。「障がいのある子に生の音楽を聞かせたい」という思いから始まったコンサートは、六回目を迎えた。毎回、大勢のボランティアに支えられている。

(高橋功)

「障がいのある子の中には声援隊むぎぐみ」の高濱正伸理事を上げたりする子もいるので、長四世。子育てに頑張っているなかなかコンサートには行けない保護者たちにも心を休めてもらいたい、と話している。

ぐるり

南東発見伝

高濱さんの長男の丈太郎君(五)は、脳性まひの障がいがある。元々は、脳性まひの障がいがあるが、高濱さんの経営する学習塾で「丈太郎に生の楽器の音を聴かせてあげたい」と話したところ、当時、浦和高校の吹奏楽部だった教え子たちが「ほくたちが弾きますよ」と名乗り出してくれた。

二〇〇三年一月、同センター小ホールで初めて行われたコンサートには、浦和高や草加南高、に合唱した。「子どもたちの心

14日 南区で演奏会



昨年のシャイニング・ハーツ・パーティに出演した越谷市音楽団(子育て応援隊むぎぐみ提供)

に合唱した。「子どもたちの心にメロディやリズム、音色が深められたほか、高濱さんの友人でプロのコーディネーター、二回目以降は同センター大ホールで行われ、出演者もアカペラで無償で参加。フィナーレでは出演者と約百人の観客が一緒団(第三回から)など多彩に。

コンサートをきっかけに知り合った母親たちが、チラシ配りなどの裏方仕事を引き受けてくれた。回を重ねるごとにつながりの輪は確実に広がっている。

「これほど反響があるのは、障がいのある子どもたちが楽しめるコンサートへのニーズがあったということ。多くの人たちに聴かせてあげたいという使命感がある」。昨年は約七百人が来場。今年のコンサートは、約二百人のボランティアが支えている。

初回から客席で生演奏を楽しむ丈太郎君について、高濱さんは「家で聴く音楽には好き嫌いがあるが、生の音楽はじっとして聴いている。社会性が育っているんだろう」と話す。保護者からも「生演奏という生きた教材は、障がいのある子どもと保護者たちにもとっても良い」など、多くの喜びの声が寄せられている。

第六回の出演は、さいたま寿座、さとりのゆうえい、越谷市音楽団、花まるバンド。

問い合わせは、花まる学習会の鈴木さん(☎048・8837・5514、k-suzuki@hanamarugroup.jp)へ。